

第4学年国語科学習指導案

1 単元名 人物の気持ちを想像しながら読もう 「ごんぎつね」

2 指導観

① 児童の実態

本学年の児童は、これまでに物語「三つのお願い」「白いぼうし」で、場面の移り変わりにともなう人物の心情の変化を、叙述をもとに想像しながら読むことをしてきた。具体的には、読みのめあてに沿って、叙述とそこから分かることを書き出していくひとり読みと、それをもとにしながら、自分の読みを確かめ合う交流活動という読み方である。その際、場面ごとに中心となる文を設定し、考えの根拠となる叙述とそこから分かることを話し合うことで、友だちの考えや感じ方の違いに気付くことを大切にしている。しかしながら、交流活動を通して、自分の考えを見直し、より確かで深い自分の考えをつくり出す力を十分に身につけるには至っていない。

② 教材の価値

本教材は、ひとりぼっちの小ぎつねのごんと兵十との心のすれちがい、そして交流を、美しい情景描写と重ね合わせた作品である。物語はごんの気持ちに寄り添い、このふたりの関係を描いており、児童はごんの姿に同化しながら、同時に、児童自身の経験に照らして共感的に読み進めていくことができると思われる。

また、児童が今まで経験してきた読み方を使って読むこと、つまりごんのつぶやきや行動の叙述を手がかりにして思考力と想像力を働かせて作品世界を読み味わうにはふさわしい教材であると考えている。

③ 指導に当たって

本教材の指導に当たっては、次のような工夫を考えている。

- i 出合う段階では、題名と冒頭から、ごんの生きている状況や人物像、村人との関係をとらえさせる。さらに、これからの展開を予想させる中で読みのめあてをつくる。
- ii 見通す段階では、まず教師の範読で全文のあらすじをとらえ、読みのめあてに対する自分なりの考えをもたせる。その上で、交流をもとに考えを整理し、学級の読み確かめの方向を確認して学習計画を立てる。
- iii 読み確かめる段階では、ひとり読み、交流活動を通して、場面毎のごんの気持ちを読み確かめていく。ひとり読みでは、あらすじをしっかりとつかみ、叙述を確かめるために必ず音読を位置づける。次に、その場面を読み確かめるための中心となる叙述を確認し、各自えんぴつ読みをさせる。最後に、根拠にした叙述を紹介し合い、次時の交流活動へとつなぐ。
交流活動では、まず何を何のために話し合うのかを明確にする。その上で、根拠とそこから考えたことを発表すること、自分の考えとの共通点・相違点を意識させながら聞くことを押さえて、交流させる。最後に、友だちとの交流活動をもとにして、ひとり読みの段階の自分の考えに付加・修正させる。その際、書き方のモデルを提示することで、確かになった自分の読みや友だちの考えのよさを意識化させるようにする。そのようにして、書きまとめたレポートを数名発表させることで、友だちの考えのよさへの気づきやまとめ方のヒントとする。
- iv まとめ段階では、全文を読み直し、ごんの気持ちの変化や兵十との関係について、読み深めたことをもとに感想をまとめさせる。

3 目標

- ◎ 中心となる文とそれにつながる叙述を根拠として、めあてに対する自分の考えをもつことができる。《自ら》
- ◎ 相手意識をもって話したり、自分の考えと比べながら共通点・相違点をとらえて聞いたりして、一人一人の感じ方について違いがあることに気付くことができる。《互いに》
- ◎ ひとりぼっちになった兵十に寄せるごんの気持ちの移り変わりや兵十との関係を、言動の叙述をもとに想像しながら読むことができる。《読み》

4 指導計画：15時間（※支援 aはひとり読みに関する支援 bは交流活動に関する支援）

配時	主な学習活動と内容（○）	支援（※）と評価の視点（◆）
1	<p>題名と冒頭の文から、読みのめあてをつくる。</p> <p>1 題名と冒頭を読んで、登場人物について考え、読みのめあてをつくる。 ○ ごんの生きている状況（時・所・住まい・村の中での位置）や人物像（性格）、他の人物との関係（村人との関係）をとらえるとともに、語り手の「わたし」が何に感銘を受けて語り継ごうとしているか想像すること。</p> <p>【読みのめあて】 ごんはいたずら小ぎつねのままだろうか。また、この『ごんぎつね』のお話の何が語り手の「わたし」の心の中にずっと残っているのだろうか。</p>	<p>※ ごんの生きている状況や人物像、他の人物との関係が表れているところに線を引かせながら読ませる。</p> <p>※ どうしてこのお話が語り継がれてきたかに気づかせる。</p> <p>◆ ひとりぼっちのいたずら小ぎつねのごんは、村人と非友好的な関係で暮らしていることをとらえるとともに、「わたし」が小さいときに聞いたお話をなぜ今語ろうとするのかについて課題意識をもっているか。</p>
2	<p>ごんの言動からあらすじをとらえ、読みのめあてについての自分の考えを書くとともに、互いの考えを交流して整理し、学習計画を立てる。</p> <p>1 教師の範読を聞き、あらすじをつかむ。 2 ごんのしたことを中心にどんな場面かを学習プリントに簡単に書く。 ○ 六つの場面での出来事をつかみ、あらすじをとらえること。</p> <p>3 読みのめあてに対する自分の考えを書く。 ○ ごんの行動や心内語に注目して読み、あらすじをつかむこと。また、それをもとに語り手の心に残っていることを想像して書くこと。</p> <p>【読みのめあてに対する自分の考え】 村人を困らせるいたずらばかりをしていたごんは、兵十のおっかあが亡くなったことで、おなじひとりぼっちの兵十のことが気になりはじめ、うなぎのつぐないをしようと思ひ立ちます。自分にできることをしようと思ひ兵十のうちにいわしを投げ込んだり、栗や松たけを届けます。それは、いたずらばかりしていた心を新しくしたということだと思います。しかし、その気持ちは兵十には届かず、悲しい結果になってしまいました。 このことから、語り手の「わたし」には、兵十と心を通わせたいというごんの切ない心と、それがかなわない悲しさが心に強く残っているのではないかと思います。そしてさいごの瞬間にお互いにわかり合えたこともまた、「わたし」が話していく大きなわけだと思います。</p>	<p>※ 読みのめあてに対する自分の考えを書くことを意識して聞くように確認する。</p> <p>※ 新出の漢字や難しい言葉を押さえる。</p> <p>◆ あらすじをつかみ、学習プリントに自分の言葉でどんな場面かを書けているか。</p> <p>※ 書き方のモデルを提示する。</p> <p>◆ あらすじの大体をつかみ、語り手の心に残っていることを想像して書けているか。</p>
4	<p>4 一読目で生まれた読みのめあてに対するそれぞれの考えを交流し、整理する。 5 まだはっきりしないことや疑問を出し合い、読み確かめるための学習計画を立てる。 ○ 読み確かめる見通しをもつこと。</p>	<p>※ それぞれの読みの答えやその根拠を把握しておき、指名計画を立てておく。</p> <p>※ 場面毎のごんの気持ちに注目して読んでいくことを確認する。その際、兵十との関係も押さえていく。</p> <p>◆ 場面毎に何を明らかにすればよいのかをつかんでいるか。</p>

5	<p style="text-align: center;">ごんのいたずらぶりから、ごんの気持ちを考える。</p> <p>1 第1の場面を音読し、場面のあらすじを確認する。</p> <p>2 えんぴつ読み、でごんの気持ちを考える。 ○ 中心文とそれにつながる叙述をもとに、ごんの気持ちを考える書き込みをすること。</p>	<p>※ 自分の考えを書くことで、困っている児童に対しては、具体的に注目する叙述や言葉を取り上げ、個別に相談していく。(a-4)</p>
6	<p style="text-align: center;">…畑へ入っていもをほり散らかしたり、～たり、～したり…。 ちよいといたずらがしたくなったのです。</p> <p>3 ごんの気持ちを考えるときに根拠にした叙述を出し合う。</p> <p>4 交流活動を通して、ごんがいたずらをするときの、気持ちを考える。 ○ 友だちと自分の考えを比べながら、ごんの気持ちを想像すること。</p> <p>5 交流で学んだことをもとに、学習感想を書く。</p>	<p>◆ 中心文や言葉、それにつながる叙述から、自分の考えを書き込むことができているか。</p> <p>※ 中心となる叙述をもとにして、そこから考えたことを発表するとともに、自分の考えと同じところ・違うところ・似ているところを意識させながら聞かせる。(b-2)</p> <p>◆ ひとりぼっちで暮らすごんの生活と関連させて、いたずらするときの気持ちを想像することができるか。</p>
7	<p style="text-align: center;">うなぎのいたずらとおっかあの死を結びつけ、後悔するごんの気持ちについて考える。</p> <p>1 第2の場面を音読し、場面のあらすじを確認する。</p> <p>2 えんぴつ読みで、ごんの気持ちを考える。</p>	<p>※ 自分の考えを書くことで、困っている児童に対しては、具体的に注目する叙述や言葉を取り上げ、個別に支援していく。(a-4)</p>
8	<p style="text-align: center;">「ちよっ、あんないたずらをしなけりゃよかった。」</p> <p>3 ごんの気持ちを考えるときに根拠にした叙述を出し合う。</p> <p>4 交流活動を通して、いたずらを後悔するごんの気持ちを考える。</p> <p>5 交流で学んだことをもとに、学習感想を書く。</p>	<p>※ 中心となる叙述をもとにして、そこから考えたことを発表するとともに、自分の考えと同じところ・違うところ・似ているところを意識させながら聞かせる。(b-2)</p>
9 10 本時	<p style="text-align: center;">「つぐない」をくり返すごんの行動には、どんな気持ちがこめられているか考える。</p> <p>1 第3の場面を音読し、場面のあらすじを確認する。</p> <p>2 えんぴつ読みで、ごんの気持ちを考える。</p> <p style="text-align: center;">次の日も、その次の日も、ごんは、くりを拾っては…。 その次の日には、くりばかりではなく、松たけも二、三本、持っていきました。」</p> <p>3 ごんの気持ちを考えるときに根拠にした叙述を出し合う。</p> <p>4 交流活動を通して、ごんがつぐないをくり返す、その気持ちを考える。</p> <p>5 交流で学んだことをもとに、学習感想を書く。</p>	<p>※ 自分の考えを書くことで、困っている児童に対しては、具体的に注目する叙述や言葉を取り上げ、個別に支援していく。(a-4)</p> <p>※ 中心となる叙述をもとにして、そこから考えたことを発表するとともに、自分の考えと同じところ・違うところ・似ているところを意識させながら聞かせる。(b-2)</p>

1 1	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">「おれは引き合わないなあ。」と自分の存在を認めてほしいごんの気持ちを考える。</p> <p>1 第4・5場面を音読し、場面のあらすじを確認する。</p> <p>2 えんぴつ読みで、ごんの気持ちを考える。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">「…、おれは引き合わないなあ。」</p> <p>3 ごんの気持ちを考えるときに根拠にした叙述を出し合う。</p>	<p>※ 自分の考えを書くことで、困っている児童に対しては、具体的に注目する叙述や言葉を取り上げ、個別に支援していく。(a-4)</p>
1 2	<p>4 交流活動を通して、「引き合わないなあ」とつぶやくときの気持ちを考える。</p> <p>5 交流で学んだことをもとに、学習感想を書く。</p>	<p>※ 中心となる叙述をもとにして、そこから考えたことを発表するとともに、自分の考えと同じところ・違うところ・似ているところを意識させながら聞かせる。(b-2)</p>
1 3	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">ぐったりと目をつぶったまま、うなずいたごんの気持ちを考える。</p> <p>1 第6の場面を音読し、場面のあらすじを確認する。</p> <p>2 えんぴつ読みで、ごんの気持ちを考える。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">「ぐったりと目をつぶったまま、うなずきました。」</p> <p>3 ごんの気持ちを考えるときに根拠にした叙述を出し合う。</p>	<p>※ 自分の考えを書くことで、困っている児童に対しては、具体的に注目する叙述や言葉を取り上げ、個別に支援していく。(a-4)</p>
1 4	<p>4 交流活動を通して、ごんがうなずいたときの気持ちを考える。</p> <p>5 交流で学んだことをもとに、学習感想を書く。</p>	<p>※ 中心となる叙述をもとにして、そこから考えたことを発表するとともに、自分の考えと同じところ・違うところ・似ているところを意識させながら聞かせる。(b-2)</p>
1 5	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">全文を読み直し、ごんの気持ちの変化や兵十との関係について読み取ったことをもとに、語り手の「わたし」の中に残っている『ごんぎつね』について想像をひろげ、感想をまとめる。</p> <p>1 各場面で作ってきた自分の考えを読み直し、感想を書く。</p> <p>○ 各場面で読み取ったことをもとに、自分なりの感想をまとめること。</p> <p>2 全体で交流する。</p> <p>○ 友だちの考えを聞き、一人ひとりの感じ方について違いがあることに気付くこと。</p> <p>○ 自分の考えのよさを確かめること。</p> <p>3 教師の朗読を聞き、まとめをする。</p> <p>○ 自分が読み取ったごんの気持ちの変化と兵十との関係を想像しながら聞き、作品を味わうこと。</p>	<p>※ 各場面で読み取ったことをもとにして、感想を書くことを知らせる。</p> <p>※ 手がかりとしたごんの言動とその気持ち、そして兵十との関係をふり返らせる。</p> <p>※ 書き方の型を示す。</p> <p>◆ 考えの根拠とした中心文の言葉とそこから分かることをまとめることで、自分の考えを見つめ直し、感想をもつことができているか。</p> <p>◆ 友だちの考えを受け止めたり、自分の考えを見つめ直したりしながら、作品全体を味わうことができているか。</p>

6 本時目標

- ① 相手意識をもって話したり、自分の考えと比べながら共通点・相違点をとらえて聞いたりして、自分の読みをより深めることができる。《互いに》
- ② いたずらぎつねのごんが兵十に心を寄せ、つぐないをくり返す気持ちを考える。《読み》

7 本時指導に当たって

本時の指導においては、次のような学習指導の工夫を考えている。

- i 焦点化した話し合いにするためには、児童が課題をはっきりつかんでおく必要がある。そこで、二つの段階を踏んでごんの気持ちを考えていく。まず、ごんがつぐないをくり返すことが分かる叙述から、①その行動から分かるごんの気持ちを話し合う。その上で、ごんのつぐないという行動に込められた気持ちにより深く迫ることができるように、②なぜごんはつぐないをくり返す気持ちをもつようになったかと問う。
- ii 前時のひとり読みの段階では、上記の①②の問いで、ごんの気持ちを十分に時間をとって書き込みをさせている。中心文とそれにつながる叙述からの解釈を前時ひとり読みでもっているの、「どうして自分の考えと違うのか」「似ているところはないか」「ごんの気持ちを考える上で、なるほどと思うことがないか」と、友だちの考えと自分の考えとを比べやすく、より深く交流できると考える。
- iii 自分の考えを発表するときには、「ごんは～な気持ちだと思います。この文の～というところから、～なことが分かるからです。」と、自分の考え、根拠ならびに解釈の順で話すという約束を確認する。このように構造的に話を組み立てることは、思考を整理する上で重要な訓練であるし、聞き手も意見をつかみやすくなる。
- iv 友だちの考えを聞くときは、相手の目を見てうなずき、反応する約束を確認する。このことで、発表する児童は友だちに自分の考えを伝える意識が高まるし、聞く側の児童も目的的に聞くことができると考える。
- v 交流活動に際しては、心理的に近い距離感がもてる場を構成し、安心して語りかけ聞き合う気持ちへ向かわせる。また、話し合いに集中させるため、学習プリントと筆記用具のみを準備させる。
- vi まとめの段階では、この場面でごんは、ただのいたずらぎつねから、兵十へ気持ちを寄せてつぐないの気持ちを行動に表していくきつねに変化していることを押さえたい。同時に兵十との関係にも気付けさせ、読みのめあてを意識させていく。このとき、書き方のモデル提示をすることで、確かになった自分の読みや友だちの考えのよさを生かすことができるようにする。

8 展開 (※支援 aはひとり読みに関する支援 bは交流活動に関する支援)

配時	主な学習活動と内容 (○)	支援 (※) と評価の視点 (◆)
1分	1 本時のめあてを確認する。	※ 前時につくった根拠とその解釈の読み直しをさせる。(b-1)
	《学習のめあて》 「つぐない」をくり返すごんの行動には、どんな気持ちがこめられているか考えよう。	
4分	2 音読 (個人読み) して交流の準備をする。	※ 本時場面を拡大したものを示し、自分の根拠とした叙述を意識させる。(b-1)
25分	3 「つぐない」をくり返すごんの行動にこめられた気持ちについて話し合う。 (1) 「つぐない」をくり返すごんの行動は、 どういう気持ちの表れなのか話し合う。 ○ 行動に表れているごんの気持ちを、友だちの根拠と解釈を聞き、自分の考えを吟味すること。	※ 中心になる叙述を提示し、どの言葉が何を表現しているかの児童の考えを視覚化する。(b-2) ◆ 叙述に立ち止まって、ごんの気持ちを考えようとしているか。

うなぎのつぐないに、まず一つ、いいことをしたと思いました。
次の日には、…山でくりをどっさり拾って、…。
次の日も、その次の日も、ごんは、くりを拾っては…。
その次の日には、くりばかりではなく、松たけも二、三本、持っていきました。



- ・ 思いつきではない真剣な気持ち，うそではない本気でつぐなっていく気持ちの表れだと分かる。
- ・ 兵十のためになることを，そして喜んでくれることを，自分にできることで，精いっぱい続けていこうという気持ちの表れだと分かる。

(2) なぜ「つぐなう」気持ちをもったのかを話し合う。

- ごんの行動を生み出した気持ちを，友だちの根拠と解釈を聞き，自分の考えを吟味すること。

※ 友だちの意見について，共通点・相違点に注意しながら検討を加えさせていく。(b-2)(b-3)

※ 反応しながら相手の目を見て聞くことを押さえる。(b-1)

あんないたずらしなけりゃよかった。



- ・ 思いこみながらも，ごんは自分の罪の重さに気付いて後悔する気持ちをもったからつぐないをくり返している。

おれと同じ，ひとりぼっちの兵十か。



- ・ 兵十が自分と同じひとりぼっちであると気付いた瞬間，兵十への慕わしい気持ちが生まれたから，つぐないをくり返している。

《期待される児童の姿》

- ・ 「どうして自分の考えと違うのか」「似ているところはないか」「なるほどと思うことがないか」と，自分の考えと比べながら，共通点と相違点をとらえながら聞いている。
- ・ 「ごんは～な気持ちだと思います。(自分の考え)。この文の～なところから～ということが分かるからです。(根拠と解釈)」と，友だちに語りかけるように自分の考えを伝えている。

※ 書き込んだプリントを見ずに，相手意識をもって語りかけることを押さえる。(b-1)

◆ 自分の考えを発表したり，自分の考えと比べながら友だちの考えを聞いたりすることで，自分の読みをより深めているか。

15分

4 まとめをする。

- (1) 学習感想を書く。
 - (2) 読み深めた自分の考えを発表する。
- 交流活動を通して，自分の考えを確かにする。

《期待される児童の姿》

- ・ 自分の読みに自信を深めたり，友だちの考えのよさを取り入れ修正したりして，自分の考えを書き，発表している。

※ 交流活動をもとに，ひとり読みの段階の自分の考えに付加・修正させる。

※ 書き方のモデルを提示する。

※ 交流活動で自分の考えがどう深まったか，その変容（深化）を数名発表させる。

◆ 深い反省と悔恨，そしてひとりぼっちの兵十に自分の気持ちを寄せて，「つぐない」を思い立ったごんの気持ちに気付いているか。